

水難防止の注意点

近年の兵庫県内における水難発生状況ですが、発生件数については年間約50件、死者については概ね20名前後で推移しており、事故者の約4割が亡くなっています。

水の事故は命に直結するケースが多いことから、水辺では以下の点に注意し、事故に合わないよう気を付けましょう。

[「兵庫県内における水難発生状況」はこちら](#)

行為別特徴

最近5年間に兵庫県内で発生した水難を見ると、最も多いのが「魚釣り・魚取り中」の事故で、発生件数・死者数ともに約30%を占めており、以下、「水泳中」や「作業中」、「その他」の事故が続いています。

※ 「その他」は、立ち上がった際にバランスを崩して海に転落した、落とし物を拾おうとして川に転落した等

年代別特徴

○ 20歳未満の年代

「水遊び中」や「魚釣り・魚取り中」、「水泳中」の事故が多いほか、「陸上における遊戯・スポーツ中」の事故者のほとんどをこの年代が占めています。

○ 20歳代以上の年代

「水遊び中」と「ボート遊び中」、「陸上における遊戯・スポーツ中」を除いて20歳代以上の年代の事故者が多く、事故者の約75%、死者の約90%を占めています。

特に、「魚釣り・魚取り中」の事故は、事故者・死者ともに40歳代以上の年代に集中しています。

そのほかにも、大人特有の事故として、飲酒後に岸壁等を通行中に誤って海や川に転落した事例も散見されます。飲酒後は、水辺に近づかないようにしましょう。

水難防止に向けた注意点

○ 救命胴衣を着用しましょう

万一、水中に転落等した場合に備えて、水辺では救命胴衣を着用しましょう。

魚釣り中に誤って海に転落したものの、救命胴衣を着用していたため無事救助された事例がある一方で、未着用のために死亡した事例が多く発生しています。

自分の命を守るため、救命胴衣の着用を心掛けましょう。

○ 自分の体力や泳力を過信しない

浅瀬等の安全な場所で自分の体力や泳力の現状、その日の体調の把握に努め、自分の体力や泳力を過信した無謀な遊泳は止めましょう。

○ 子供から目を離さない

子供の水難は、保護者が目を離した隙に発生しています。水辺では、常に子供達に注意を向けましょう。